

## 日本での時間と私の成長

Ni, Yuan

東洋大学

7年前、私は重い荷物を持って上海空港から東京に向かいました。それから時間があっという間に過ぎ、瞬間に18歳の少女から大人に成長したようです。ここ数年、人生の大切な日はほとんど日本で過ごしてきました。日本に来たばかりの頃は、中国の友人から送られてきた写真を見てホームシックになりそうでした。しかし、今では第二の故郷のように日本に深い想いを抱いています。

新しい挑戦にはいつも多くの困難が伴います。日本での生活に全然慣れていなかった時に、最初の家を借りたり水道代や電気代を契約したりするとき、不安なことが多かったです。段々日本での生活に慣れてきて、不安なことも減り、友達もできてコミュニケーションをとるようになり、日本での生活が楽しくなりました。しかし、新型コロナウイルス感染が世界中に流行し、様々なことがありました。国に帰ることはもちろん、友達に会うこともできず、ほとんどの時間を一人で過ごしていましたので、本当に寂しくてとても不安でした。時間が経つにつれ、心も落ち着き、どのように乗り越えるかを冷静に考えました。やると決めたことは最後までやり遂げないといけないと決め、その信念を持って、今まで頑張ってきました。時には心が折れそうになった時もありましたが、黙々と学業を続けている内に、自分の成長を感じました。外国で生活する留学生の私にとって、ここ数年の新型コロナウイルスのパンデミック状況は、最大の苦境でしたが私を最大に成長させてくれました。

もし将来中国に帰ってしまったら、日本のラーメンをもう一度食べられるだろうか？ 大学の小道にある高い銀杏の森で四季を感じられるだろうか？ いつも静かに生活している隣人を思い出すことが出来るだろうか？ 活気に満ちた日本人の研究室のメンバーや優しくいつも笑顔の教授と会えなくて寂しくなるのではないだろうか？ 東洋大学川越キャンパスが恋しくなるだろう、こんなことを考えるたびに心が痛くて悲しくなります。ここ数ヶ月で、研究成果を修士論文にまとめることになりませんが、後どれくらい残っているか分からない日本での生活を大事にしながら、私のさらなる成長の時間にし、将来には中国と日本との学術的交流に一助したいです。

出来れば、中国に帰っても時々日本に戻ってきたいです。歳をとった後も東洋大学川越キャンパスを散歩しながら空を舞う桜を眺めることが出来たらいいと思います。



写真 東洋大学川越キャンパスの銀杏の道